
リリカルなのはsts 戦闘犬

ピッツァ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのはs t s 戦闘犬

【Nコード】

N 8 3 2 2 Z

【作者名】

ピッツァ

【あらすじ】

主人公、佐藤一郎が起きたら犬になっていた！
迫り来る子供達の魔の手、そして動きだす男の象徴を取り除こうとする者達

そして遂に現れる最強の犬、タローとの最終決着……

* *

* + うそです

n | n

+ (ヨ) (* , (E)

Y

Y

*

吾輩は犬である名前はまだ無い（前書き）

ネタバレ、引かれます

吾輩は犬である名前はまだ無い

朝、起きたら毒虫になった男の話を知っているかい？そうカフカの
俺は今それと同じ様な状況に立たされている

毒虫何かじゃなくもつとプリティーなもんだが

犬だ。

毒虫よりはましだろう、まあ？まし？ってただだが

だがこんな時こそ忘れてはいけないのは常に冷静にいる事だと思う。
慌てたつて解決するわけじゃない、だから冷静に物事を判断し最良
の道を探す事だと俺は思う

だから冷静にタイムマシンを探すでしょう

「見て！お母さん、あの犬、自販機の中に頭突っ込んでるよ！」

「ふふつ、おバカな犬ね」

うるせつんだよ！こんな状況で冷静でいられるか！

最良の道何か探せるか！慌てる事しか今の自分には出来ん！！
だからこれは決して馬鹿な行動では無い

人間なら当然の行動なのだ！

.....

「こら！待て馬鹿犬！」

へへっ、それをくぎゅボイスで言ってくれるんならいいぜ

今、俺は口にドックフードをくわえながら走っている

これまでの経緯を説明すると

あの後やつと冷静になれたけど

何をすればいいのかも何でこんな状況になったかは分からないが腹は減る

犬を飼った事無いので何を食えるのか知らないから、取り敢えずドックフードを食べようとしたのだが、犬の格好でドックフードを買いえる筈もなく

渋々盗む事にしたのだ……いや本当に渋々だよ？

おっちゃんゴメン、でも俺をこんな状況にした奴が悪いと思うんだ

やつと食べれるぜ……くそ、開かない。

何回か噛み噛みしたらやつと開いた

なんか、ドッグフードを食うことにも、汚い地面で食うのも抵抗無くなつたな……

それから一週間の時が過ぎた……

相変わらず店からドッグフードを盗み（おっちゃんごめん、マジごめん）

ダンボールや落ちていた布の様な物を使って寝床を作ったり

他の犬と意思疎通を図っていたり（なぜか全体的に青かったが……病気？）

今日は公園でどうやって人間に戻るかを考えている

ん？転がったボールを追いかけて、女の子が道路に飛び出した！

そこに運悪く車が走って来る、昼からヘヴィな物が見れそうだな

……あそこで善人なら助けに行くんだろうが、俺は善人じゃないんでね（いや、善犬か？）

あの女の子には悪いが運が悪かったって事で……ん？もう一つボー

ルが道路に飛んできたな、
あれ…あのボール見てると何か……

「すずかの奴相変わらず強いボールね……ん？キャアアア！」
「ガオウ！」

邪魔だ！嬢ちゃん！
ドン！
「きゃ！」

よし！ジャンプしてボールをキャッチ！ヒヤッホー！
楽しい！もう一回だれか投げてくれないかなあ
ゴン！！「キャン！」

横から凄まじい衝撃を感じた瞬間、俺の体は飛んでいた

吾輩は犬である名前はまだ無い（後書き）

轢かれます

吾輩は犬である名前はもうある（前書き）

原作キャラ登場

脇役だけど

吾輩は犬である名前はもうある

あ？ここは何処だ？

「アリサちゃん！目覚ましたよ！」

「ふぁ……え！ あ…良かった…良かった…」

そして何だこの状況は

起きたら金髪の少女が「ごめんね」と犬に繰り返す状況がそこにはあった

ごめんね？何に対して謝っているんだ？

はっ！もしか俺をこんな姿にしたのはこの嬢ちゃんか！？

許さん！絶対に許しはしない！謝ったって許さないからな

そんなに気持ちよく撫でられたって……まあ、話くらい聞いてやらんこともない

どうやらこのアリサと言う少女は車に轢かれそうになった所を

俺が命を賭けて助けたと思っているらしい

まあ俺はアリサちゃん（馴れ馴れしい）を助けようとしたわけではなくボールに惹かれた所を轢かれたただけなんだけどな

ドヤァ……

喋れないから弁明できる筈もなく（する気もないが）少女の良い匂

いを犬の嗅覚で楽しむ

しかしこんな純粹無垢な顔で謝られると被虐心が…では無く罪悪感がやばい

少女がどうやら泣き止んだらしい

「それにしてもあなた強いわね、車に轢かれてもかすり傷一つないなんて」

「そうだよ、運が良かったのかな？」

そ、それともまさかこの俺の体がチートだったり！？

……人と喋れないと悲しい事を知った

少女達は相変わらず俺の事で話をしている

「じゃあお願いね、すずか」

「うん、もちろん」

とんとん拍子に話が進み、どうやら俺はすずかという少女の家で飼われるらしい

冗談じゃない！自分でも時々忘れるけど俺は元人間なんだぜ！

人間が人間に飼われる事を容認出来る程人間を辞めちゃいない！

数日後、そこには猫と一緒に走り回るポチの姿が！（アリサ命名）

吾輩は犬である名前はもうある（後書き）

猫がいるのに飼っていいのかと言う話をスルー

吾輩は犬である狼ではない（前書き）

転生者

吾輩は犬である狼ではない

やあ、ポチと言う不愉快極まりない名前に決まったポチだよ（実は気に入っている）

月村家にも慣れてきた所すずかちゃんの友達が来たらしい

アリサ

くぎゅボイスの彼女とは何回も顔を合わせている

犬の俺は見た事ないが多分ツンデレだろう

高町なのは

可愛い顔のはずなのに、何故だろう悪魔と言う単語が浮かび上がってきたのは

しかし何処かで見た顔の様な……

フェイト・テストロッサ

アリサと同じ金髪である、何かいじめたくなる顔だ
こっちも何処かで見た気がする……

八神 はやて

関西弁の少女、何か狸を思い浮かべる子だ
こいつも何処かで見た気が……

ユーノ

フェレットである、何故だろう彼？に親近感が湧いたのは
彼を見てると何故かお腹が鳴った

栗原 鉄

エロガキと言う印象を浮かぶでもどうやら同学年とかに興味は無い

ようだ

メイドさんにエロい視線を送っている
親近感が湧く

高須 流

銀髪！イケメン！頭良い！

の三拍子が揃っている非常に殺意が沸くやつだ
くそ！どうせ俺なんか負け犬よ
こんな奴なんかこうだ！

「ギャ！」

「あれは！不機嫌顔の犬がいきなり高須くんの頭にしがみつきおし
つこを掛けたあ！」

「なんで説明口調なんや」

うはっはは！ざまあ見る！

流が顔を真っ赤にして俺を睨んでいたがすぐにしたり顔を作り

「げ、元気な犬だね、でもさすが、躰はちゃんとしくべきだよ」

「ご、ごめんね、こら駄目だよポチ」

うひひ、謝る必要なんかないですよーだ

「シャワー浴びてきた方がいいんじゃない、臭いし」

ぶっひゃ！テストちゃーん

やったの俺だけどそれ酷くない？もっとオブラートに包んだほうが

……天然？

はうあ！銀髪くんがものすつこい顔で睨んでくる！
ご、ごめんなさい

「ぶっひゃひゃひゃ！そりゃ酷いぜ、フェイト嬢、た、確かに本当の、プッ 本当の事だけでもっと優しく言わないと……ギャハハハ！」

「ぶっ！だ、ダメよ鉄…あはは」

「栗原！」

「わ！近づいてくんじゃねえ！汚いだろが！」

「貴様！」

「ギャー！近づいてくんじゃねえ！冷静沈着（笑）が売りだろうが！」

「仲良いなあ」

本当だな

あ、鉄が流に殴られた

あれを見てると人間の頃を思い出す

………散歩行こ。

すずかちゃんの足を叩き散歩に行く事を伝えるジェスチャーをする

「あ、行つてらっしゃい」

「なんや、今の？」

「ポチって猫みたいにあっちこっち行くから心配で、行こうとする時教えてって言うてみたら、本当に教えてくれる様になったんだ」

「ほおー賢いなあ」

リリエ：いや何でもない

散歩をしていると青い犬と出会った

飼い主の人は相変わらず金髪で美人だ

いつも通り彼女のパンツを覗こうとすると犬が話しかけてきた

「おい、今シャマルのスカートの中を覗こうとしなかったか？」

「おいおい、近所で女性限定で紳士的な犬と噂されてるこの俺がそんな事するわけないだろ」

「そうか、それならいい」

「で、どうよ近況は」

「それなりだ」

「それにしてもシャマルさんのパンツは何時もピンクだな、何でなんだ？」

「お気に入りらしい……って、やっぱり覗いてたのか！」

「にしても相変わらずでけえなあ、お前本当に犬か？」

「スルーか、犬ではない狼だ」

「ぶっひやww狼とかwww」

「……………」

「ごめん、でも日本狼は絶滅した筈なのになあ」

「日本出身では無い、ベルガ出身だ」

「ベルガ？そんな所あるのか？なにアメリカ？」

「別次元だからな」

「お前が何を言っているのか別次元すぎて分かんねえよ」

「ふむ、言っても信じないだろうがこの世界は……む、どうやら散歩再開の様だ、じゃあな」

「おい待てこらそんな謎を残したままはいさよならとかふざけてんのか、俺も行く」

「そうか、いいか、そもそも……………」

「ほうほう、それでそれで？」

ざっ
ふいーからいろんなはなをきいてたのしかったですまる

吾輩は犬である狼ではない（後書き）

主人公は男に厳しく女にいやらしい下劣な野郎です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8322z/>

リリカルなのはsts 戦闘犬

2011年12月27日23時46分発行